

B—17 色彩嗜好調査法に関する検討

愛国学園女子短大 戸塚 歌子

1. 色彩嗜好調査については、これまでも多数の人々によって試みられ、またそれらの方法についての総合的な検討を行ない実施した第1報については、学会誌にすでに投稿済みである。今回は、更に灰台紙の妥当性を吟味しつつ前回及ばなかった点を補うために、気質と嗜好色の相関性及び移行性に重点をおき調査を行なった。なお気質について一部の限られた特性について統計処理を行なったが他についても逐次調査整理する予定である。

2. 対象、本学園短大生（1・2年生60名）の特別眼の疾患のない者。時期、昭和38年6月。

① 前報では白紙法（白・灰・黒の台紙）及び全視法の比較検討を行なったが、今回は灰台紙について前回同様の資料を用いて調査した。

② 気質の判定にあたって、小保内氏によるC、S、T及び内田クレペリン検査を実施し、更にデザイン学習の作品を観察し、総合的な処理をしたものである。

3. 嗜好色の全体的傾向は、好きな色・嫌いな色について、前回と同対象（2年）及び異なった対象（1年）共に前回と同様な結果が得られ、また嗜好の移行性については、同じ対象を今回同時期に調査したが、顕著な動向は見られなかった。嗜好色と気質との相関については、嗜好色の選択傾向を連続観察した結果、各気質に特色が見受けられるが、今回は、その一部について報告する。